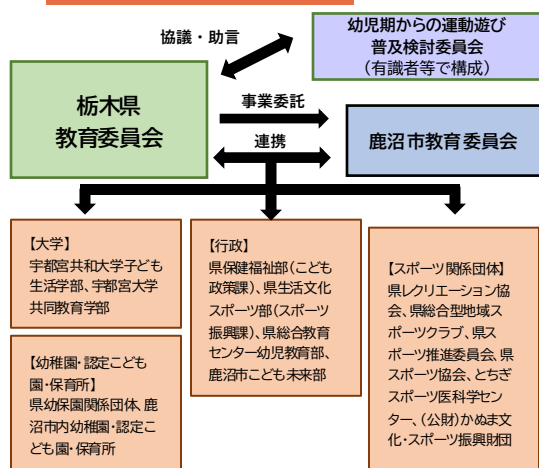


幼児等の健やかな成長を支える運動遊びの普及・啓発事業 ～県内全域への普及と環境づくりの推進～

目的・背景

栃木県では、これまで幼児等の望ましい運動習慣形成に向け、動画配信や指導者研修、体験教室等の取組を継続してきた。実施市町の園や家庭では一定の普及効果が見られた一方、未実施市町や運動への関心が低い保護者層へのアプローチは依然として不十分であり、県内全域への波及が課題となっている。そこで本事業では、「運動への関心が低い保護者層への普及啓発」と「日常的に運動遊びを経験できる環境づくり」を柱に据え、園の行事と連動した出前講座や指導者派遣等を通じ、保護者や指導者の意識醸成を図るとともに、各市町が主体となって、幼児期からの運動習慣形成に向けた取組を推進を目指す。

実施体制図



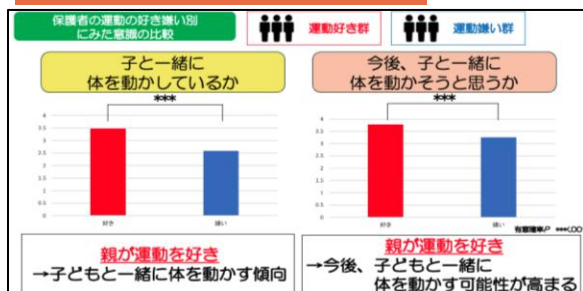
主なスケジュール

実施時期	実施主体	事業項目
		(1) 体制整備 検討委員会 ・効果検証
		(2)① 運動遊びの啓発 ・指導者研修会 ・普及啓発チラシ作成 ・運動遊びシート作成システム
		(2)② 運動遊びの提供 ・園行事での出前講座 ・親子運動遊び教室 ・指導者派遣事業
		(3) 成果報告会
6月	栃木県	・第1回委員会開催
7月	鹿沼市	
8月	栃木県	・調査項目決定
9月	栃木県	・調査票作成
10月	鹿沼市	・研修会開催（鹿沼市共催）
11月	栃木県	・各種調査票
12月	鹿沼市	・運動遊びシート作成システム導入等作業
1月	栃木県	・第2回委員会開催 ・各種調査票
2月	鹿沼市	・WEBサイト普及啓発チラシ作成 ・親子運動遊びシート作成システム導入等作業
3月	栃木県	・分析結果等報告
		・サイト普及啓発チラシ配布 ・運動遊びシート作成システム運用開始

ポイント

栃木県が専門家による検討委員会の運営や動画作成等の基盤整備を担い、鹿沼市が「親子運動遊び教室」や「園への指導者派遣」といった現場実装を担う明確な役割分担とした。県が講師確保や啓発資料作成を一括して担うことで市町の事務負担を軽減し、未実施市町でも導入しやすい環境を整えた。特に、運動会等の既存行事を活用した「出前講座」の実施は、運動に関心が低い保護者層へ効率的にアプローチできる体制として有効であった。

主な結果と考察



調査の結果、「保護者が運動を好きかどうか」が、親子の運動実践や今後の意欲に強く影響していることが判明した（ $p<.001$ ）。保護者が運動に親しみを感じている家庭ほど、子供と一緒に動く傾向が有意に高く、保護者の意識が子供の運動習慣形成に影響する主要因であると言える。今後は、運動に関心が低い層や苦手意識を持つ層でも手軽に楽しめる運動遊びを普及させるとともに、保護者自身が体を動かす動機付けとなる取組を並行して進めることが、子供の運動習慣形成において有効であると考えている。

成果と課題、今後の展望

成果

- 県と鹿沼市の連携による研修会の開催は、職域を超えた広範な指導者の参加を促進し、子供の運動習慣形成を支える連携体制の構築につながった。
- 運動会等の既存行事での出前講座を通じ、運動に関心の低い層へも効果的に介入できた。専門家による直接指導は、親子が運動遊びの楽しさを体感し、その重要性を再認識するきっかけとなった。
- シンポジウムでの取組事例の紹介や有識者等によるパネルディスカッションを通じ、園・地域・家庭が連携する重要性を再確認し、広く発信することができた。

課題と今後の展望

- 出前講座等により関心は高まったが、運動が苦手な保護者や園における日常的な継続への動機付けが依然として課題である。
- 実施市町での成果は着実に上がっているが、県内全域への普及には課題が残る。今後は、各地の現場の声や運動遊びの実態についてさらなる把握に努め、地域の実情に即した持続的な運動習慣形成に向けた取組を検討・推進していく。



保護者の声

- 両親ともに運動が苦手で、子供の運動に付き合うのがつらいと感じていましたが、運動会で親子の触れ合いとしての楽しさを体感できました。子供の運動習慣づくりのために、時には親も子供と一緒に運動するよう意識することは大切だと感じました。
- シンポジウムに参加し、大人の関わりや環境づくりの重要性を再認識しました。特にパネルディスカッションでは、教育現場の視点だけでなく、保護者の立場など、様々な視点からの意見を伺うことができ大変参考になりました。『自分にできる関わり方でよい』と安心することができ、前向きな気持ちになりました。



事業の内容

運動遊びの重要性の普及啓発

- ・ **指導者研修会**
(実施内容: 幼児期運動指針に基づいた発達に応じた運動遊びの指導法と実践(1回)、実施時期: 9月、参加人数: 63名、参加者の属性: 幼稚園教諭、保育士、スポーツ関係団体等指導者)
- ・ **普及啓発チラシの配布**
(内容: 親子運動遊び動画の普及・啓発、配布数: 県内幼稚園・認定こども園・保育所に通う3~5歳児保護者宛て約50,000枚)
- ・ **親子運動遊びシート作成システム構築**
(内容: 動画を選択し、独自の親子運動遊びシートを作成できるシステムを導入、配布方法: 県内幼稚園・認定こども園・保育所、小学校へチラシデータ送付)



- ・ 職域を超えた多様な指導者を対象とし、運動会を控えた時期に「現場ですぐに活用できる親子遊び」を研修内容に組み込むことで、参加動機と実践への意欲を高める工夫をした。
- ・ 県内の各園を通じて、対象家庭へ確実に配布した。動画をランキング形式で紹介し、親子で「やってみよう」と思える紙面構成にすることで、認知度の向上と積極的な活用を促した。
- ・ 動画を選んで資料化できる機能を導入し、作成の負担を軽減。園の行事や子供の関心に合わせて自由に組み合わせられるカスタマイズ性を備えることで、現場や家庭の実情に即して継続的に活用できる環境を整えた。

運動遊びの提供

- ・ **運動会や保育参観等の行事における運動遊びの出前講座**
(実施内容: 既存の園の行事を活用し、親子での運動遊びを実践するとともに、その重要性を伝える啓発講座(7か所)、実施時期: 10月~12月、参加者の属性: 幼稚園・認定こども園・保育所の幼児、保護者、保育士等、参加人数: 約700名)
- ・ **親子運動遊び教室**
(内容: 日用品(新聞紙・タオル等)を活用した親子でできる運動遊び(2回)、実施時期: 12月・1月、参加人数: 30名)
- ・ **運動遊び体験指導者派遣**
(内容: 幼稚園や保育所等へ専門指導者を派遣し、ACP等を活用した運動遊びの直接指導体験指導者の派遣(9園・延べ42回)、実施時期: 8月~1月)



- ・ 既存の行事を活用することで、運動に関心の低い層を含む幅広い保護者への啓発の機会を確保した。また、用具不要の運動遊びを中心に紹介し、保育者が「自園でも実践できる」と実感できる内容構成にすることで、日常的な取組への定着を図った。
- ・ 新聞紙やタオルなど、日用品を運動教具として活用。特別な準備を不要にすることで、教室で学んだ内容をその日のうちに家庭で再現できる環境を整えた。
- ・ 同一園に専門指導者を繰り返し派遣することで、子供たちが遊びに慣れ、運動への意欲の段階的な向上を図った。また、園の日常の活動に専門指導が加わる形式をとることで、派遣終了後も園独自で活動を継続しやすい環境を整えた。

成果報告会

- ・ 実施内容: 本県及び実施市町における取組内容の紹介、大学教授等による分析結果等の報告、有識者によるパネルディスカッション
- ・ 実施日時: 2月27日(金)13:30~16:30
- ・ 実施場所: 栃木県総合文化センター サブホール
- ・ 参加人数: 約80名
- ・ 参加者の属性: 幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、中学校教諭、行政関係者、スポーツ関係団体関係者、保護者 他



- ・ 大学教授や保育現場の代表に加え、企業代表や子育て世代の視点を持つ元トップアスリートをパネリストに迎え、園・地域・家庭が連携した運動習慣形成の在り方を多角的に議論した。誰もが当事者として関わる重要性を共有し、参加者からは自身の役割を見つめ直す機会として好評だった。
- ・ 集客にあたっては、年度末の多忙な時期と重なり参加者の確保に苦慮したため、募集期間の延長を決定した。併せて、駐車スペースの確保・提供を行い再周知するなど、利便性の向上と現場の実情に即した募集活動を展開した。